

飼料用とうもろこし推奨品種「パイオニア108日(35G86)」

飼料用とうもろこし品種「パイオニア108日(35G86)」は、耐病性、乾物生産量に優れる中生品種で、本県での高位安定生産が期待できる。

表1 生態特性と形態的特徴

試験年次	播種日からの日数				播種～黄熟期までの積算温度()		稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)
	発芽	雄穂	絹糸	黄熟期	有効	単純		
平成10年	10	80	80	136	1,318	2,704	277.0	131.0
平成11年	12	75	76	125	1,289	2,539	286.0	139.0
平成12年	10	70	70	115	1,239	2,387	262.0	115.0
平均	11	75	75	125	1,282	2,543	275.0	128.3

栽培適地は有効積算温度が1,250以上の地域または標高500m以下の県下全域である。
また、10アール当たりの適正栽植本数は6,500本(畦間75cm×株間20.5cm)が目安である。

表2 障害、病害

試験年次	有効雌穂 割合 (%)	倒伏 割合 (%)	病 害 程 度					
			すす紋 (1-9)	ごま葉 (1-9)	黒穂 (%)	根腐れ (%)	萎縮 (%)	紋枯病 (%)
平成10年	98.7	0.0	1.0	1.0	0.8	0.9	0.5	0.0
平成11年	100.0	0.0	1.0	1.0	0.9	1.8	0.9	0.0
平成12年	96.7	0.0	1.0	1.0	0.8	0.4	0.8	1.3
平均	98.3	0.0	1.0	1.0	0.8	0.7	0.6	0.4

注：すす紋病、ごま葉枯病は無(1)～甚(9)で評価。

すす紋病、ごま葉枯病に対する抵抗性は高い。その他の病害では黒穂病、根腐病、萎縮病、紋枯病が認められたが、実用上問題はないレベルである。

表3 収量性

試験年次	生草 収量 (kg/10a)	乾 物 収 量				
		雌穂 (A) (kg/10a)	総重 (B) (kg/10a)	雌穂率 (%)	生産速度 (kg/10a/日)	TDN 収量 (kg/10a)
平成10年	6,769	1,193	2,121	56.2	16.8	1,544
平成11年	6,195	1,163	2,106	55.2	18.6	1,538
平成12年	7,255	1,209	2,104	57.5	20.0	1,548
平均	6,740	1,188	2,110	56.3	18.5	1,543

乾物生産性に優れ、特に子実割合の高い高エネルギー品種である。